

第57回全国知的障害福祉関係職員研究大会

[鹿児島大会]

第1分科会 「育ちをささえる」

～こどもの豊かな育ちをささえる支援者になろう～

シンポジウム

「大分県での保育コーディネーター 養成の取り組みについて」

令和元年10月23日（水）

社会福祉法人 別府発達医療センター

児童発達支援センター ひばり園

園長 越智芳子

今日の話の構成

- ひばり園の療育（取り組み）
- 大分県発達障がい者支援専門員養成研修
- 保育コーディネーター養成研修
- 講義：発達障がいの理解と気になる子どもの理解
 - ・気になる行動の理解と対応
 - ・家族への支援
 - ・支援者へ
- 視察研修：児童発達支援センター研修を終えて
- 保育コーディネーターフォローアップ研修
- まとめ

○ひばり園の療育（取り組み）

・対象

発達障がい児(気になる段階から)と肢体不自由児 【4対1の割合】
(発達障がい児の年長児以外は保護者通園)

・定員 24名

・療育内容

発達支援：TEACCHプログラム、感覚統合、S-S法、ABA（応用行動分析）
SST（ソーシャルスキルトレーニング）、などの専門性に基づいて
行っている。

移行支援：保育所等訪問支援 13件 10施設
障害児等療育支援事業（施設支援）

家族支援：ペアレント・トレーニング
ペアレント・プログラム

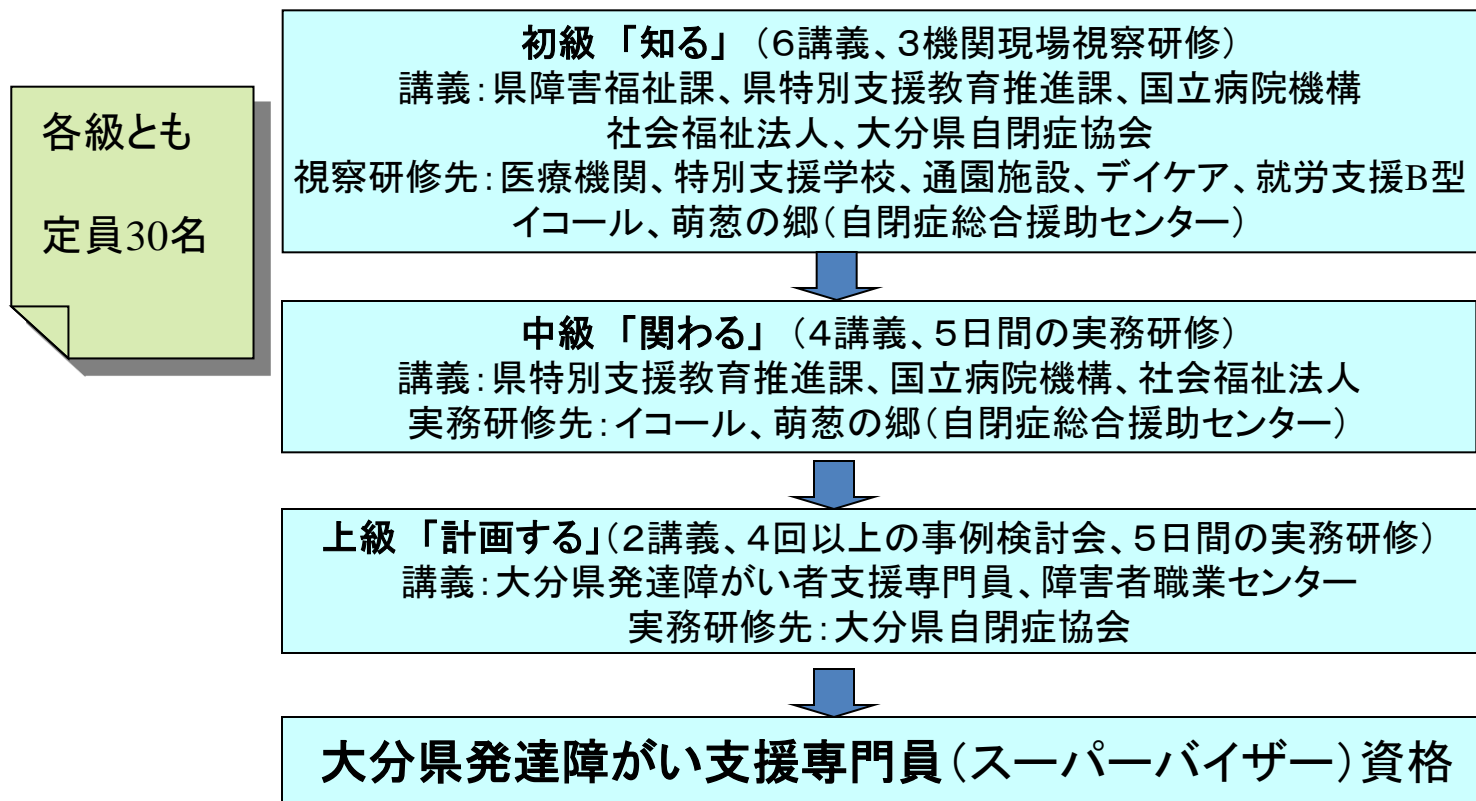
地域支援：大分県児童発達支援協議会（平成25年度より）立ち上げ、
年に2回の研修会を行っている。

講師：児童精神科医師・作業療法士・保育士・相談員等

○大分県発達障がい者支援専門員養成研修

【目的】この研修は、医療・保健・福祉・教育・労働の各分野において支援を行っている方々へ3年間の研修を行い、発達障がい児(者)のライフステージを見通した相談や支援を行う専門家(スーパーバイザー)を養成し、大分県内全域における発達障がいの理解と各地域支援体制を整えるために行う。

【実施主体】 **大分県発達障がい者支援センター(イコール)連絡協議会**

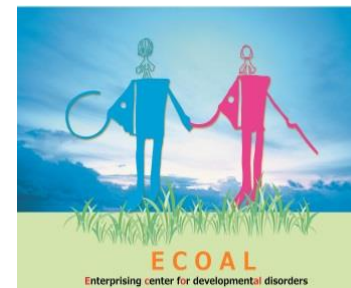


現場で学べる機会が欲しい

大分県発達障がい者支援センターの取り組み

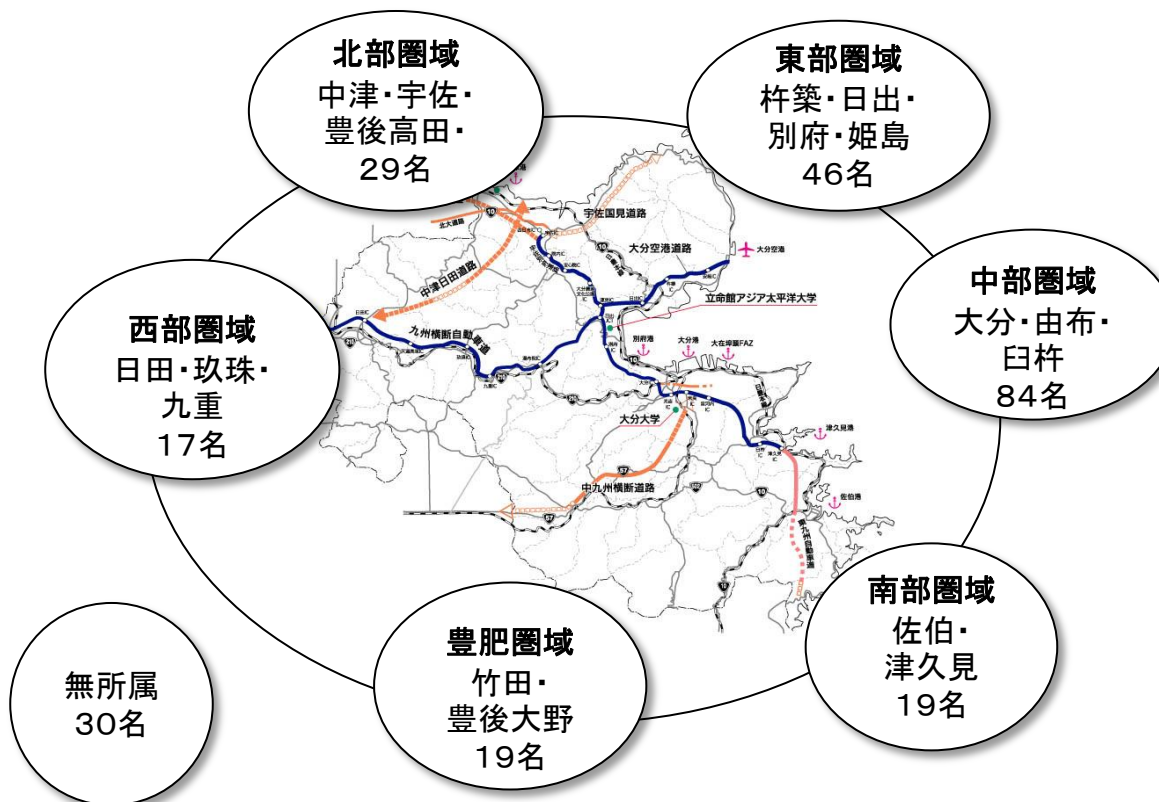
大分県発達障がい者支援体制(圏域支援ネットワーク)

令和元年度の体制
 大分県発達障がい者支援専門員:244名
 ECOAL圏域支所:4ヶ所



大分県発達障がい者支援専門員養成研修修了者

平成20年度	15名
平成21年度	31名
平成22年度	33名
平成23年度	26名
平成24年度	18名
平成25年度	19名
平成26年度	19名
平成27年度	28名
平成28年度	28名
平成29年度	25名
平成30年度	26名
合計	268名



大分県発達障がい者支援センターイコールHPより

○保育コーディネーター養成事業(平成26年～)

大分県保育コーディネーター養成研修資料より

現 状 核家族化や少子化の影響による、地域の「子育て力」の低下、子育ての「孤立化」、「密室化」、その他家庭経済・社会的要因などが絡まり、複雑な環境に置かれている児童が増えている。
このことから、近年、保育所には、ネグレクトが疑われる要保護児童や、生活困窮家庭の児童など、特別な配慮を有する児童が多く通園している

しかし…

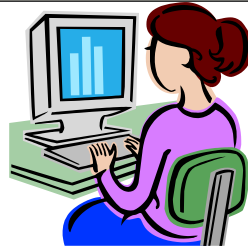
課 題 保育所等では、複雑化・困難化する特別な配慮を有する乳幼児や家庭のケースに対して、対処方法や専門機関との連携方法を学ぶ機会が少ないため、十分な支援が困難となっている

専門性の向上と関係機関との連携が必要

未解決の課題

保育コーディネーター養成研修(7回程度)の実施

- ・発達障がい児支援
- ・要保護児童支援
- ・配慮が必要な家庭への支援
- ・地域における子育て支援
- ・相談援助技術
- ・上記に関連した現場研修
- ・保育所等に求められる役割と期待 など



修了者には認定書交付



※研修は大分県保育連合会に委託(協力:大分県発達障がい者支援センター「イコール」等)

効 果

保育所等の機能強化



- ・質の高い保育サービスの提供
- ・保護者の子育て不安の解消(虐待防止)
- ・早期の適切な療育支援

保育コーディネーターの役割について

大分県保育コーディネーター養成研修資料より

保育の現状

- ☆0～5歳児を集団保育
- ☆子どもの発達のプロである保育士等の専門家が多く勤務

○成育過程における子どもの発達・発達状態の違いについて気づいている

地域を網羅した子ども支援のアンテナ機能

地域資源

しかし受信できて

- 違いの原因に確証が持てない
- 子ども・家庭への適切な支援方法が分からない
- 専門機関を知らない・連携方法が分からない
- 保護者への的確な報告・説明が困難

課題

早期に必要な、支援のチャンスを逃している

実際にあったケース

- ケース1 明らかに他児と違う言動で発達障がい疑われる4歳児。親に伝えようとするが、うまく伝えられず、逆に人権侵害だと園にクレーム。園内で検討するも、具体的な対処方法が見いだせず時間が経過しそのまま小学校へ進学。 → 早期に適切な療育を受けていれば、子どもの成育について改善が図られたケース
- ケース2 生活に困窮し昼夜働いているシングルマザー、夜は、知人男性が子どもの面倒を見ている。子どもに発達障がいの疑いあり。園での子どもの様子もおかしく虐待が疑われる。園内で検討するも、具体的な対処方法が見いだせず時間が経過し小学校へ進学。その後、虐待の疑いにより、小学校が相談し一時保護。長期にわたる不適切な養育により子どもの心に大きな傷、成長にも影響を及ぼしている。 → 早期に専門機関と連携して対処できていれば、重篤化が防げたケース

対策

保育コーディネーター研修



役割①：相談技術向上による家庭支援



傾聴

共感

各園



保育コーディネーター



役割②：問題解決に向けた園内のコーディネート

園長

担当

担当

担当

情報共有
園内連携

園内で
解決できるケース？



園内だけで
解決できないケース？

支援

研修によって学んだ知識と築いた人脈により助言・判断



役割③：園内だけでは解決できないケースの専門機関との連携

支援

ケース1：虐待

- 市町村ケースワーカー
- 家庭児童相談員
- 児童相談所
- 民生・児童委員 等

ケース2：発達障がい

- 児童発達支援センター
- 保健師
- 発達障がいSV
- 特別支援学校 等

ケース3：貧困

- 生活保護 (CW)
- 母子支援相談員
- おおいたサポステ
- 社会福祉協議会 等

ケース4：孤独

- 子育て支援拠点
- 子育てサークル
- 市町村子育てイベント
- 出会い応援事業 等

令和元年度大分県保育コーディネーター養成研修実行委員名簿

	氏 名	肩 書
委員長	土谷 修	すがおこども園 園長 おおいたホームスタート推進連絡会議会長
副委員長	五十嵐 猛	大分県発達障がい者支援センターECOALセンター長
委 員	松田 順子	学識経験者（家庭支援論） 東九州短期大学 教授
委 員	飯田 法子	大分県臨床心理士会 理事 大分大学福祉健康科学部 准教授
委 員	越智 芳子	社会福祉法人 別府発達医療センター 児童発達支援センターひばり園 園長

行政関係委員	大分県教育庁特別支援教育課
大分県福祉保健部 こども未来課	大分県こども・女性相談支援センター
大分県福祉保健部 障害福祉課	大分県教育庁 幼児教育センター

事務局	大分県保育連合会
-----	----------

大分県保育コーディネーター養成研修

【目的】 保育所(園)及び認定こども園において、特別な配慮が必要な児童や家庭に応じた専門的な支援を行うとともに、関係機関と連携して適切な時期に適切な支援につなげる人材を養成し、大分県内の地域に根ざした子育て支援体制を整える。

【実施主体】 大分県、大分県保育連合会

第1日 「オリエンテーション / 県教育庁幼児教育センター」
「保育所等に求められる役割と期待 / すがおこども園、大分県発達障がい者支援センター」
「家庭支援論 / 東九州短期大学」

第2日 ★「発達障がいの理解と気になる子どもの対応 / 別府発達医療センター」
「社会的養護を要する子どもたちへの支援 / 中央児童相談所」

第3日 「視察研修Ⅰ / 児童養護施設、一時保護所」
「初期対応から要保護児童対策地域協議会へ / 中央児童相談所」

第4日 「保育コーディネーターのための相談援助技術 / 大分大学福祉保健部科学部」
「行政説明：地域の子育て支援サービス、ひとり親家庭への支援、障がい児の支援サービス」

第5日 「視察研修Ⅱ / 地域子育て支援センター、子育て支援拠点(センター)」
「視察研修Ⅲ / 特別支援学校」

第6日 「実際の支援に向けて(発達障がい児) / 大分県発達障がい者支援センター」
「実際の支援に向けて(ホームスタート) / すがおこども園」

第7日 ★「視察研修Ⅳ / 児童発達支援センター」
「事例検討 / 運営委員会」

12月中旬「レポート提出」
12月下旬「認定考査」、1月下旬「認定式」

定員100名
(6圏域)

大分県保育コーディネーターの会(圏域支援ネットワーク)

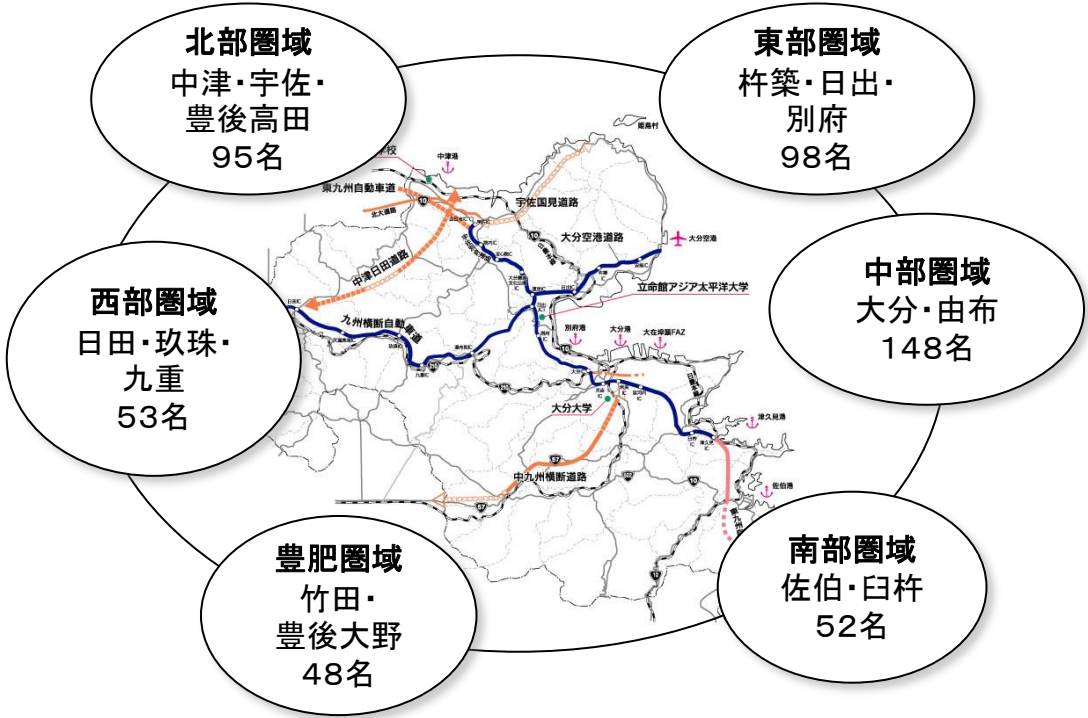
大分県保育コーディネーター
養成研修実行委員資料より

保育コーディネーターに期待される役割

①虐待、②発達障がい、③貧困、④孤独

- ・外部の専門機関や福祉サービス等に関する情報を有する
- ・職員の共通理解を高めるために園内研修等を企画運営する
- ・特別な支援ニーズのある家族と教育や福祉などの外部機関との連携窓口となる
- ・特別な支援ニーズのある児童の教育保育計画を作成する
- ・地域交流などの場面で、特別な支援ニーズの普及啓発を行う

令和元年度の体制
保育コーディネーター: 490名
令和元年受講者: 107名



養成研修修了者	
平成26年度	85名
平成27年度	81名
平成28年度	112名
平成29年度	97名
平成30年度	115名
合計	490名

※ 平成29年度より、フォローアップ研修も開催中

○「発達障がいの理解と気になる子どもの対応」の講義内容

- ひばり園の発達支援
- 現代の子どもたち
- 障がいとは？
- 障がいのある子どもの理解
- 医療的ケア児の理解
- 合理的配慮に関する理解
- 気になる行動の理解と対応
- 障害児保育に関する現状と課題
- 家族への支援と子どもへの支援
- 支援者へ

♡実践を少し、入れていきますね！

• 気になる行動の理解と対応

◆ 気になる行動？

みんなと違う感じ方をする子？

目的的行動なのかも…。

1. じっとできない子
2. 噛みつく・叩くなどする子
3. 身体運動や手先運動が苦手な子
4. 気持ちを切り替えるのが苦手な子
5. 人とうまく関われない子
6. 今しなければいけないことを忘れる子

1. じっとできない子

要 因

- 筋肉が柔らかく、同じ姿勢を保てない
- 動きたい、揺れていたいなどの要求が強い
- 頭がぼんやりして、無意識に動いてしまう
- 感覚刺激をすべて取り入れてしまう

対 応

- ①動く、止まる等、変化のある運動遊びを行う
- ②無理に着席させず、動きを保障する
- ③目や耳に入ってくる刺激を少なくする

• 家族への支援

•ペアレント・プログラム（ペア・プロ）

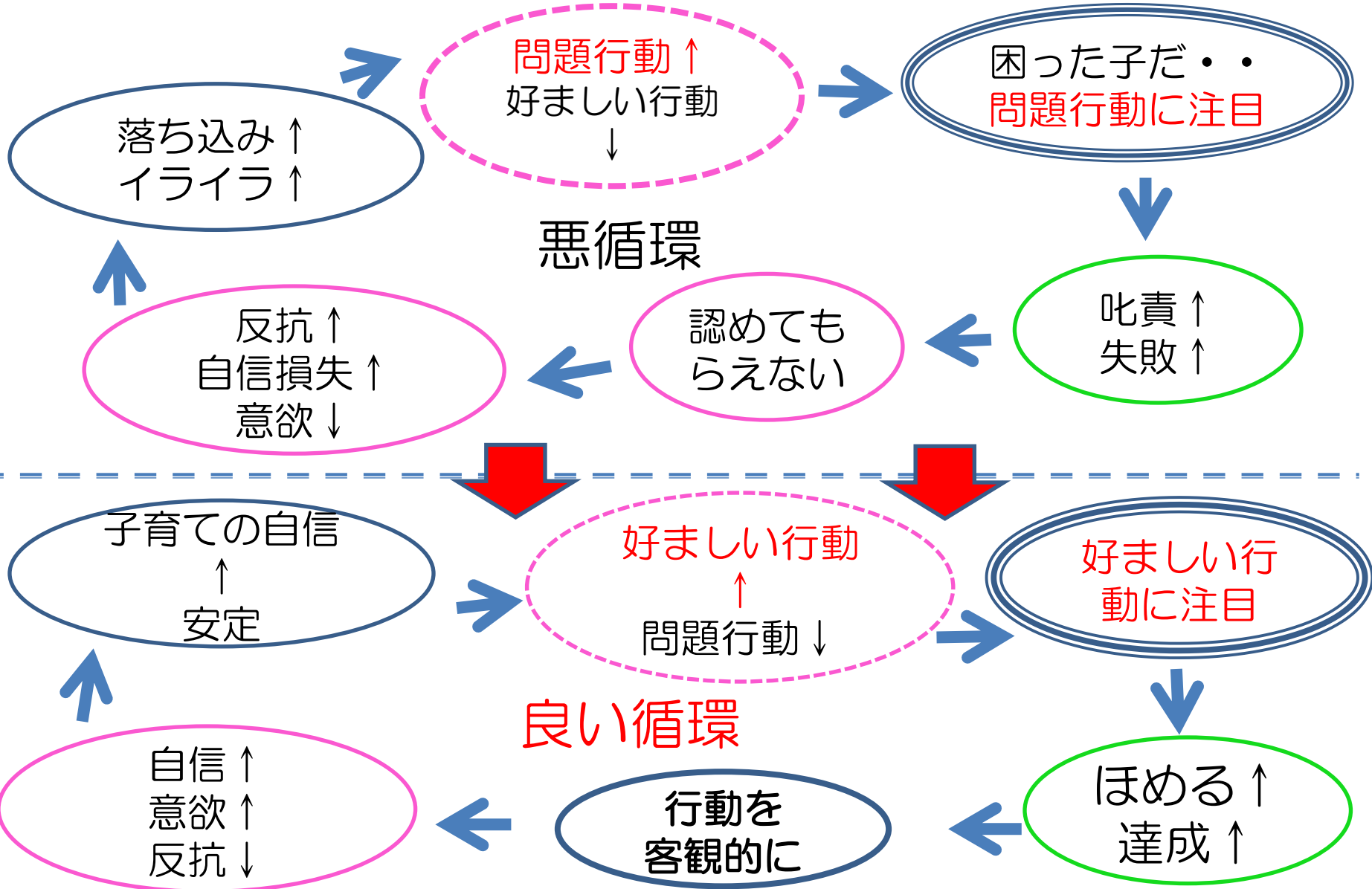
子どもの行動の修正までは目指さず、「親の認知を肯定的に修正すること」に焦点を当てたもの

•ペアレント・トレーニング（ペア・トレ）

親が自分の行動を冷静に観察して特徴を理解したり発達障がいの特性を踏まえた褒め方や指示の出し方等を学ぶことにより子どもの問題行動を減少させるもの

★どちらも親子の悪循環を良い循環に変えるもの
基本的には、行動を見て、肯定的な注目
ほめることである。

まずは関係の悪循環から脱出しよう



発達障がい児・家族支援体制強化事業

大分県福祉保健部障害福祉課資料より

①発達障がいで対応力向上研修

小児科医・精神科医・かかりつけ医等を対象に、発達障がいの相談や診療に応じるための専門的な研修会を実施する。

【講師】発達障がい児・者の診療を行っている県内の小児科医・精神科医(計2名)が国の行う指導者養成研修を受講し、県内医師に対し研修を行う。

【対象者】県内の小児科医・精神科医・かかりつけ医



現状

- ・発達障がいを診断できる医師の不足
- ・身近な地域に発達障がいに対応できる医師が少ない
- ・発達障がいに対する理解不足
- ・子どもへの関わり方がわからない

発達障がい児と家族

②ペアレントメンターの養成

ペアレントメンターを継続して養成し、周囲から理解を得られず孤立しがちな保護者に寄り添った支援を行う体制を整える。

【養成】年間10名程度養成(計72名)

【委託先】(社福)萌葱の郷(発達障がい者支援センターイコール)



- ・家族は周囲の理解不足や情報不足のため不安を抱えている
- ・身近な場所に相談できる場所や人が少ない
- ・特定の医療機関に予約が集中し診療待ちが常態化
- ・児の特性にあった医療、療育支援が不足している

③ペアレントプログラムの推進

子育てに難しさを抱える保護者に対して、発達障がいへの理解を深め、関わり方を学ぶグループ研修会を実施することにより、障がいに對する理解を深め、子どもに対する適切な対応力を身につける。

【対象】3歳～就学前の児童を持つ保護者

【事業内容】ペアレントプログラム7日×3回/障害福祉圏域

【委託先】障害福祉圏域の児童発達支援センター

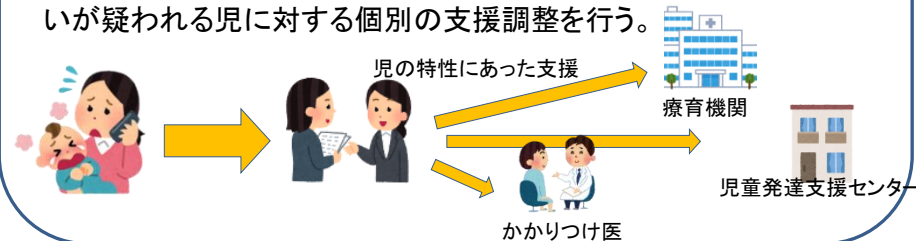


④発達障害者支援センターの療育相談機能強化

長期間にわたる「診察・療育待ち」緩和のため、大分県発達障がい者支援センターの医療・療育面での機能強化(発達障がい児支援コーディネーターの配置)を行い、「診察・療育待ち」にある児に対する個別の支援調整を実施する。

【委託先】(社福)萌葱の郷(発達障がい者支援センターイコール)

【実施内容】発達障がい児支援コーディネーターを配置し、発達障がい疑われる児に対する個別の支援調整を行う。



背景

発達上の困難や発達障がいを持つ子どもの育てにくさ、育児困難は児童虐待のリスクを増大させる要素であり、育児不安を抱える保護者を地域で支える仕組みづくりが求められている。

概要

「診察・療育待ち」の間、発達障がいを持つ子どもを抱える保護者等に対して、障がいに対する理解の促進と具体的なアドバイスが受けられる研修会を行い、心理的不安を軽減する。

◆ペアレントプログラム◆

1クール7日の保護者支援のためのグループプログラム。

- ①保護者の子どもに対する否定的な視点を肯定的な視点へ変える
- ②子どもの行動を理解し適切な対応方法を身につけ日常生活に取り入れる
- ③同じ悩みを持つ仲間を見つける

養育の学びの場

県の責務

◆発達障害者支援法◆

第十三条第1項：発達障害者の家族等への支援

課題

育てにくさに困っている！

- ・「診療待ち・療育待ち」の間、家族は周囲の理解不足や情報不足のため不安を抱え孤立している
- ・相談できる場所や人が少ない
- ・保護者の障害受容の不足
- ・発達障がいの特性がわからない、養育方法がわからない



対策

学びの場が必要！

- ・健診後や、保育所等で育児に不安を抱える保護者に対して、家庭でもできる効果的な関わりを学ぶ機会を提供することにより、障害に対する理解を促し、子どもに対する認知的な枠組みの修正を図る

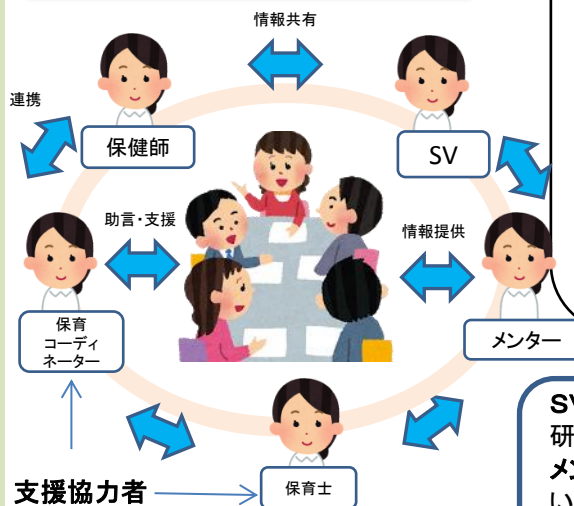
効果

適切な養育とネットワークの実現！

- ・保護者の抑うつ症状の改善
- ・叱責などのネガティブな養育行動が抑えられる
- ・子どもの行動を客観的に見るようになる
- ・適切な地域資源に繋がる
- ・身近で頼りやすいサポート体制づくり
- ・保護者が仲間を見つけることができる



◆事業イメージ◆



効果(支援者)

- (支援者養成)
- ・プログラムを理解し普及する
 - ・プログラムを業務に活用
- (連携)
- ・支援者同士の情報共有と連携強化
 - ・地域で顔が見える協力体制
 - ・保育から就学への情報連携
 - ・メンター、SV、保育コーディネーターの活用
 - ・行政と民間の連携促進

SV: 発達障がい支援専門員(3年間の研修受講者)
メンター: ペアレントメンター(発達障がいの子どもを育てた経験のある保護者で傾聴や助言を行い保護者の心に寄り添う人)

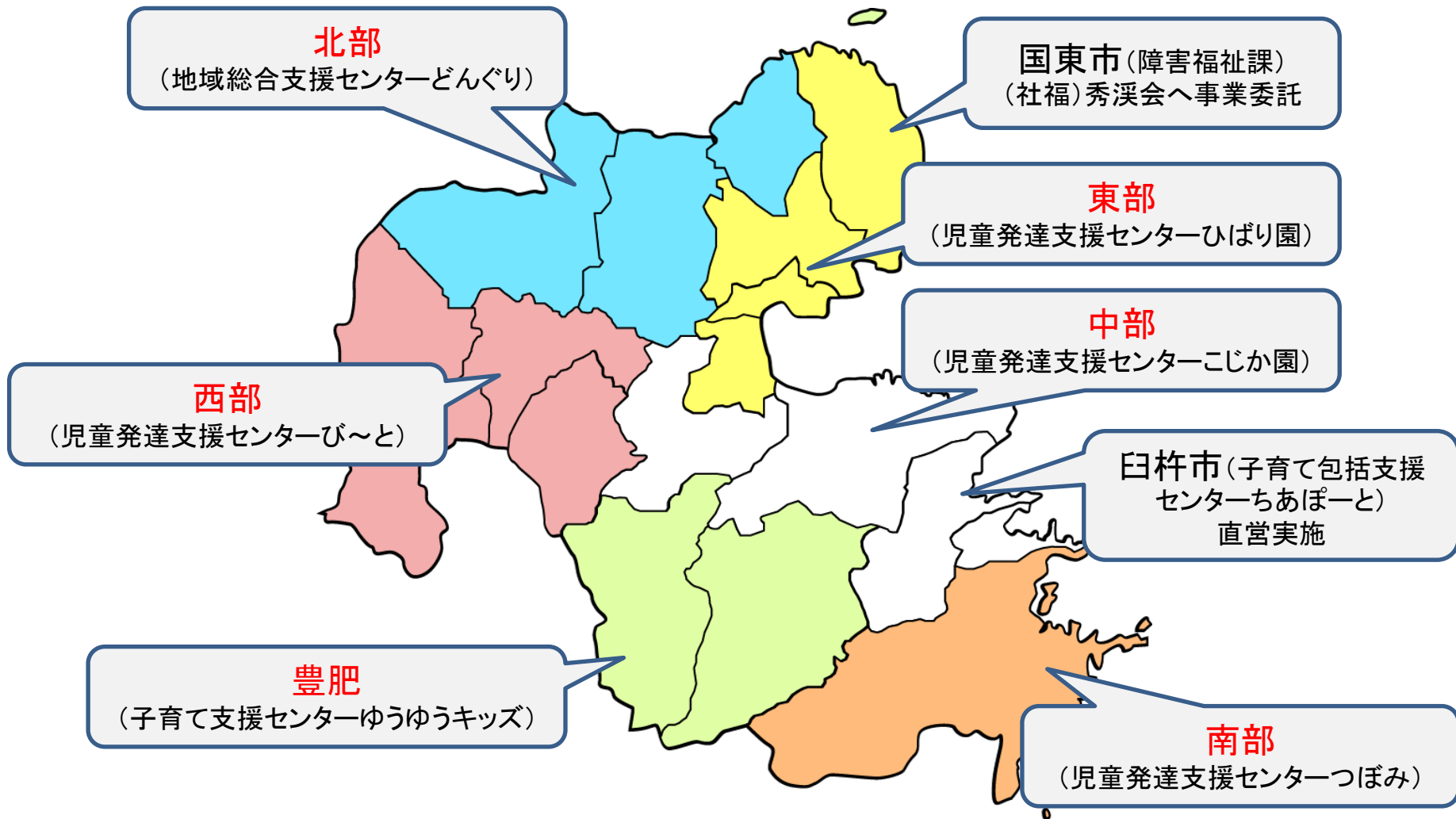
◆事業内容◆

- 1実施主体：大分県(委託先：障害福祉圏域の児童発達支援センター)
- 2対象者：3歳～就学前の児童を持つ保護者
- 3事業内容：ペアレントプログラム6日+フォローアップ研修の計7日
7日×3回/障害福祉圏域
- 4募集方法：3歳児、5歳児健診、幼稚園・保育園で気になる保護者へ声かけ
- 5支援協力者：市町村保健師、保育士、保育コーディネーター
発達障がい支援専門員、市教委、ペアレントメンター
- 6財源：地域生活支援促進事業費補助金を活用(国庫1/2)

大分県のペア・プロの実施状況

大分県福祉保健部障害福祉課資料より

認定者数38名(H31.3時点)



・ 家族への支援

- 家族も育てにくさ、関わりにくさを感じている
- 早期に子どもの状態像を把握すること
- 家族が安定することで子どもが成長する
- 安心感や信頼関係を築き、相談に応じる
- コミュニケーションを多くとる
- 労う（自分の子どもだから当然ではなく）
- 子どもの有効な支援を具体的な体験を通して伝え、成長を確認していく
- 情報を整理し、共有化する
- 個人情報保護を大切に

• 支援者へ

- 適切な対応をすることで子どもの行動が
落ち着き、関わりやすくなる
- 専門性を向上することで理解できる
- 有効な支援を具体的な体験を通して、保護者へ
伝え、理解してもらおう
- 発散方法を身につける
- ポジティブに（肯定的に）
- 一人で悩まない、支援者を増やすこと
- 支援者間の連携が必要

○視察研修：児童発達支援センター研修を終えてのアンケート

- 課題別保育の遊びから、全身運動、人との関わり、コミュニケーションなど様々な発達へと繋がっていることを感じた。
- 温かさのある手作りカレンダーや子どもたちが見てわかる工夫、保育者が、**笑顔で楽しそうな姿**と子どもたちをほめる姿勢や声かけに、見学させて頂いてる私自身も感心し、楽しく感じることができました。
- 一つひとつの遊び、保育者の援助に対して意味があること、その事を今まで実践と合わせて、根拠をもって説明して頂き、保育者としての**専門性のあり方を、考えさせられる視察となりました。**
- 先生たちも保護者も、子どもたちも、ずっとニコニコ笑顔でした。**途中部屋から抜け出すお子さんがいても、笑顔と優しい言葉かけで対応していた姿に感動し、尊敬の念を抱きました。
- 説明の中で「保護者が、子どものことを理解することがとても大切で、その保護者が安心して、子どもと接することができるように相談にのること」と話され、すなわち心のケアが大切だと思いました。

○大分県保育コーディネーターフォローアップ研修（平成29年～）

大分県保育コーディネーター
フォローアップ研修資料より

現 状

- 県内保育所等の約7割に配置済み
- 修了生は園内で生じた問題について、他機関との連携し、保護者からの相談を受けるなどしている。→**園内**での活動○
- 地域の子育て支援にも保育コーディネーターとして関わりたいが、どう活動してよいかわからないという声が多い。→**園外**での活動△

目 的

- より多くの園にコーディネーターを配置する。
- 保育コーディネーターが主体的に地域の子育てに関わることができる体制づくりを行う。
- 保育コーディネーターとしてさらなる質の向上を目指し、県全体の保育の質の向上につなげる。

養成+フォローアップ

養成研修

- より多くの園への保育コーディネーターの設置を目指す
- 未設置園を優先する
- H26年～H30までの5年間で修了者500名予定

効果

- 保育コーディネーター設置率7割→10割
- 適切な支援が必要な子どもに対応できる園が増加
- 県内全体で質の高い保育サービスの提供が可能

フォローアップ研修

ブロック別研修

【目的】

地域内の保育コーディネーター同士が関わる機会を設け、**市町村機関の職員の参加**も呼びかけ、**地域の子育て支援を主体的に取り組める体制づくり**の構築を目指す。

【内容】

- 6ブロックに分け、各地域で研修を開催。
- 官民協働で地域の子育て支援活動を協働するため、市町村機関の職員等と意見交換の場を設ける。
- ケーススタディによる支援方法の充実、経験の蓄積を図る。
- 地域資源を活用した支援を研究しながら、保育コーディネーター同士で連携を図る。

全体研修

【目的】

講演会を行ったり、**各地域の保育コーディネーター活動の発表**を行うことで、修了生全体のレベルアップを図るとともに、保育業務全般の社会的認知度を高める。

【内容】

- H30は全3回実施。
- 保育の現状について考え、保育コーディネーターの役割・重要性を再確認する。
- 既に市町村と連携して地域の子育て支援を行っているコーディネーターの発表を行う。
- 各地域の活動状況を発表し、講師やコーディネーター同士から意見をもらう。

効果

- コーディネーターの**主体的な活動**につながる（地域子育て支援等）
- 市町村と連携**を図ることで、保育サービスが充実
- 保育コーディネーター自身のレベルアップにより、より一層保育の質が向上

ブロック別研修：事例検討会の考え方（担当圏域）

★職員間の協働をメインに考えて事例を作成

・分析方法

（気になる行動や様子）⇒（子どもの思い）
⇒（保育者の対応）⇒（子どもの行動）

・対応のポイント（ティーチャーズ・トレーニングより）

○ほめるをベースに、できて当たり前のことからほめる。

○注目のパワー2つある。

「肯定的な注目」：ほめる・認める・励ます・感謝する・微笑む・興味を示す

「否定的な注目」：注意する・叱る・怒鳴る・ため息をつく・眉間にしわをよせる

*肯定的な注目を与えれば、肯定的な注目が返ってくる。

○能力や性格ではなく、行動でほめる。

○指示は、短く具体的に、皮肉や批判は避ける。

○近づいて穏やかに温かみのある声で、子どもの目の高さにあわせる。

・職員会議でのポイント

○職員全員が意見を出しやすいようにする（傾聴ー共感ー受容）

○互いを労う

○活かしあう、フォローしあうこと

・課題を立てる時のポイント

○できることとできないことを把握し、できそうなことを課題にする。

○スモールステップで、達成感を味わえるような課題にする。

○ストレングス（強み）に目を向ける。

○気になる行動を絞る

（運動・感覚・注意力・情緒・感情・社会性・コミュニケーション・生活習慣等）

事例検討会の1例

事例検討用紙

施設名(園 こども園)

プロフィール	氏名: Mちゃん (男・♂)	診断名:(手帳等も)多動性障害、手帳なし
	生年月日: (歳 ヶ月)	医療機関:
	家族構成:父、母、本児	療育機関:△△児童発達支援
	保育歴: 4年	相談機関:
主訴: 多動、不注意、衝動性、たびたび専門機関へ勧めるが母親が受け入れられない。		

記入日:平成31年1月10日

気になる行動や様子	子どもの思い	保育者の対応	子どもの行動
友達の作ったおもちゃをくずす。すぐに衝動的なってしまうがまんできず、お友達に手が出てしまう	友達の遊びに加わりたくない。相手に何もされていないのに、たた叩きに行ってしまう。	友達の作ったものを壊したらダメだとその都度教えて「友達の作ったものをくずそうとした時「見れてたよね」と「楽しいね触らなくて偉いね」と褒めて、「一緒に遊ぼうね」等言葉かけする。	返事を「はい」と言い顔を傾けわかった態度をずるが、またすぐしてしまう。注意しても、何を注意されているのかわからないといった感じがある。

保育コーディネーターとしての関わり

- 職員に投げかけ皆で対応を考える。良い案を引き出し担任に試みるように促す。担任だけに任せるのではなく、職員全員で対応するよう促す。
- 療育機関の情報を共有。職員にあまり悩まず仕事を離れたら、忘れてリフレッシュするように伝える。

記入日:平成31年2月1日

気になる行動や様子	子どもの思い	保育者の対応	子どもの行動
友達の作ったおもちゃをくずす。すぐに衝動的なってしまうがまんできず、お友達に手が出てしまう	友達の遊びに加わりたくない。相手に何もされていないのに、たた叩きに行ってしまう。	気になる行動を取りそうになったら保育士が手を抑えて行動をとめる。絵カードで知らせる。意思表示できるよう代弁する。パニックになったらその場より離れさせる。	パニックになり泣いてしまう。気分が良いときは嬉しそうに甘えてくる。

考察・今後の課題

- 担任は、療育機関へ視察しいき保育士のかかわり方等を学ぶ。
- 園での様子を陰からお母さんに見てもらう。
- 職員が指導で悩み落ち込まないようにコミュニケーションを取る。

〇まとめ

保育コーディネーター養成研修の取り組みを行って思うこと

☆障がいあるなしに関わらず、子どもに寄り添い、共感すること

- どんな行動にも意味があることを知る
- わかりやすいツールで、具体的な指示をする
- 見通しを立て、安心感を与える
- 意欲を育て「できた」「楽しい」等成功体験を与える
- 折り合いをつける力をつける（がまんする力）
- 人を信じる気持ちを育てる
- 自己決定する力を身につける

☆職員間、支援者間で大切なこと

- 互いを労い、肯定的にみること
- 周囲の人々との相互作用（関係機関と協働）が大事
- 会話ではなく、対話をする
- 職員一人ひとりを縦に見て評価し、認めていくこと
- 職員に対して専門的なスキル研修を幅広く取り入れる

☆子どもの笑顔を求めて～

安定した環境の中で
子どもが
楽しい生活を送ること

(そのためには、保護者の笑顔と
支援者の笑顔が必要)

参考文献

- 感覚統合Q & A…協同医書出版
- 発達障害の子どもを伸ばす
魔法の言葉かけ…講談社
- 発達障害のペアレント・トレーニング
実践マニュアル…中央法規
- 保育士・教師のためのティーチーズ・トレーニング
…中央法規